

乳房炎 その1

大腸菌性乳房炎について

糞便中にたくさん存在する大腸菌が原因で乳房炎になり、重症や死に至ることもしばしばあります。そこで、糞便による汚染が大腸菌性乳房炎の一番の原因と考えて、試験的に糞便で乳房を汚し、乳房炎になるかどうかを調査しました。対象牛は全てPLテスト陰性であり、搾乳後きちんとディッピングを行ってから、糞尿を乳房に塗布し経過を観察しました。その結果、もともと体細胞数の多い乳房が乳房炎になりやすかった、ということでした。

また、当所で行った調査でも、敷料の大腸菌群数が1g当たり100万個以上あると大腸菌性乳房炎が数頭発生していました。

大腸菌性乳房炎の対策では、こまめに敷料を交換し、乾燥させることで、牛床の大腸菌を減らすことが大事であり、あわせて過搾乳をしない、ミルク離脱後ディッピングを行い、乳頭が閉じるまで牛を立たせておくことなどを実行し、予防に努めてください。

(日本乳房炎研究会 第10回学術集会から)